

寒食雨二首其二

中国名詩選（下）川合康三 三二三頁

春江欲入戸 春江戸に入らんと欲し

雨勢來不已 雨勢来たりて已まず

小屋如漁舟 小屋は漁舟の如く

濛濛水雲裏 濛々たる水雲の裏

空庖煮寒菜 空庖 寒菜を煮

破竈燒濕葦 破竈 湿葦を焼く

那知是寒食 那ぞ知らん 是れ寒食なるを

但見烏銜紙 但だ見る 烏の紙を銜むを

君門深九重 君門は深きこと九重

墳墓在萬里 墳墓は万里に在り

也擬哭途窮 也た途の窮まるに哭せんと擬すも

死灰吹不起 死灰 吹きて起たず

洗兒戲作 児を洗い戯れに作る

元豐六年（一〇八三）十月 中国名詩選（下）川合康三 三二六頁

人皆養子望聰明 人皆な子を養いて聰明を望む

我被聰明誤一生 我は聰明に一生を誤らる

惟願孩兒愚且魯 惟だ願う 孩兒の愚且つ魯にして

無災無難到公卿 災無く難無く 公卿に到らんことを

黄州寒食詩卷

